



東京YMCA

2014 6 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



世界YMCA 170周年

1844年6月6日、YMCAがロンドンで誕生してから今年で170年。今では世界119の国と地域で、約5800万人が活動する世界最大規模の青少年団体となりました。

世界YMCA同盟はこれを記念して6月6日～8日、「YMCAワールド・チャレンジ2014」を開催。YMCAが青少年を育成する世界的な組織だということを内外にアピールするイベントで、テーマは「若者の声が社会に届くよう、私は立ち上がります (I stand up for young people and I want their voice to be heard) =略称"Stand 4 Youth"」。テーマに賛同した人の署名活動を行ったほか、各国の青年たちに動画や写真の投稿を呼びかけました。共通のロゴを持った写真や、テーマにちなんだパフォーマンス、たとえば「立ち上がる」「相手の声を聴く」などを、各国の青年たちがそれぞれに工夫してインターネット上に投稿しました。

YMCAに連なる世界の若者が、一斉に行動する迫力、ワールドワイドなつながりなど、170年を経たYMCAの姿が表された記念イベントとなりました。ぜひ下記サイトをご覧ください。

▽<https://www.facebook.com/JapanYMCAWorldChallenge> (日本語版フェイスブック)

▽<http://challenge.ymca.int/> (世界YMCA同盟の特設ページ)

<写真>

1. にほんご学院の留学生。アジア各国から集まった若者たちが日本語で「おめでとう！」の一斉コール。
2. フロストバレー(米国)へ派遣のボランティアたち
3. チャイルドケアセンターの2歳児たちが、170周年パースデーケーキに色を塗りました。
4. 昨年開校した高等学院では虹色の絵を描いて撮影
5. バングラデシュ・ボグラYMCAでは、記念コンサートが開催されました
6. 江東センターの幼児定例野外活動(エルマー)

第12回会員大会 小原武夫委員長が再任

「第12回東京YMCA大会」が5月24日、東陽町センターで開催され、会員118人が参加した。この大会は年に一度、全会員を対象に開催されるもので、東京YMCAの一年間の活動を報告するとともに、委員の委嘱や推挙、各種の表彰などが行われる。今年も、会員部運営委員5人が任期を終えて退任し、新たに5人が推挙。委員長は引き続き小原武夫氏

が務めることとなった。また今年度の名誉会員には石原力氏が推挙された。第2部には、伊豆大島の少年サッカーチーム「大島マリンスポーツ」監督である今津登誠氏が来場し、台風当時の状況やその後の復興の様子について報告するとともに、YMCAの支援に対し、感謝の言葉を述べられた(12面)。東日本大震災復興支援については、担当職員伊藤剛士が、昨

夏に石巻で開催された「S.T.T石巻国際ワークキャンプ」などについて、映像を交えて報告した。また、活躍中のボランティアに送られる「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」もあり、3時間にわたる会も和やかに執り行われた。会をおして、YMCAの活動の意義と必要をあらためて共有し、「YMCAの歌」を合唱して閉会となった。

第5部では、昨年の「山中湖センター90周年記念施設整備募金」について、募金協力への感謝と、改修工事内容が報告された。途中には、バンド演奏やキャンパソングを歌う時間もあり、3時間にわたる会も和やかに執り行われた。会をおして、YMCAの活動の意義と必要をあらためて共有し、「YMCAの歌」を合唱して閉会となった。

2014年度会員部運営委員

- ◆再任 15名
小原 武夫 (委員長)
浅見 隆夫 太田 勝人 蔵知 浩
小口 多津子 酢屋 善元 高嶋美知子
辰馬 行男 長澤 弘 中村 周三
藤江喜美子 蒔田 敏雄 宮内 友弥
三代川春一 吉田 紘子

- ◆新任 5名
笈川 光郎 神山 颯 小松 重雄
東條めぐみ 長谷川正雄

- ◆退任 5名 (任期满了)
石井 秀夫 金丸 満雄 菰刈 光彦
鈴木 雅博 村杉 克己

名誉会員に推挙

いしはら つとむ
石原 力さん (88歳)

東京大学学生YMCA出身。戦後、学生YMCAの再建に携わり、1947年初代の東京学生YMCA連盟委員長に就任した。

産婦人科の医師として、JR東京病院、虎ノ門病院、賛育会病院の院長などを歴任する傍ら、1987からこの春まで学校法人東京YMCA学院評議員を努め、また1991～97年には財団法人東京YMCAの常議員、山手ランチ委員、芦花公園女子学生会館運営委員を担い、各方面で活躍された。



ボランティア・オブ・ザ・イヤー
2014 Volunteer of the Year

音訳ボランティアサークル「シジュウカラ」

目の不自由な方のために文字や文章を音声化すること、それが「音訳」である。音訳ボランティアサークル「シジュウカラ」は、2006年度の会員部新規プログラム開発委員会から誕生し、他団体の見学や勉強会などを重ねながら活動してきた。

毎月2回、西東京コミュニティーセンターに集まって読み方の勉強会や打合せをし、実際の音訳はそれぞれ自宅に持ち帰って行っている。

これまでに八王子盲学校や久我山青光学園などの図書館に、音訳した童話・児童書を贈ってきた。CD完成までには、音訳作業に加え、校正、CDへの焼付け、ラベル印刷など様々な工程が必要だが、メンバーがそれぞれの知識や経験を大いに生かしながら活動している。

「幼児教育の場は大人の教育機関でもありません。良い教師の後ろ姿を見た父母は、きっと市民リダーになりますから」▼齊藤さんの言う会員とは、内向きにYMCAを支えるばかりでなく市民として、外へ向かう心を持つ人々の集まりではなからうか。(学校法人東京YMCA学院長 湯浅慶)

赤三角

昨秋、地元社会福祉協議会の事業で、七ヶ浜、女川、石巻を訪れた。七ヶ浜復興支援センター所長の星真由美さんは、「13年前から避難所立ち上げの訓練をしていたので、被災翌日から活動に入ることができた。センターに最初に駆けつけたボランティアは高校生だった」と語った。▼女川町は住民の1割が犠牲になる悲劇が起った。ある水産業者は被災翌日から100人の従業員を雇い続けた。▼石巻の日和山からみた風景は、ひたすら海岸線が見える風景だった。車窓から見た仮設住宅は野原の真ん中にボツンと建っていた。この時くらい人と人が助け合わなければ社会は成り立たない、と感じたことはなかった。▼ある会議の中で齊藤 實さん(YMCA史学会理事)が、YMCAの会員制度について講演された。いわく、「YMCAが行う諸活動は《YMCAの社会的発言》であり、このYMCAの本分を継承する者は何処に在るか。」と述べている(13面)。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

